

中南米を巡る情勢の変化とアメリカの介入

—平和の構築、民主主義の確立、貧困・格差の解消は？—

講師：新藤通弘さん（ラテンアメリカ研究者）

千葉県の皆さんとはいろいろな形でお付き合いをさせていただいております。千葉県AALAの皆さんと一緒に、以前作ったキューバについての本ですが、おそらくキューバについての本で、2000年以降では一番いい本ではないかと思えます。いろいろなところから、まだ引き合いがきます。全部売れてしまって注文には応じられないのですが、残っているものがありましたら、ご連絡下さい。

今日の講演の題名は「中南米を巡る情勢の変化とアメリカの介入」ということですが、このテーマは千葉県AALAから出たもので、時宜を得た壮大なテーマです。

1、ラテンアメリカ社会の成り立ちと現状

◆中南米は3つの文化が融合した社会

まず、ラテンアメリカのことをざっと知っていた方がよいということで、最初にご説明します。ラテンアメリカは、世界の陸地の15%、人口の10%程度を占めています。経済力も10%程度を占め、その中に33か国が存在します。その他に14地域があります。この地域とは、まだ独立していないところがあるからです。一番大きなのはキューバの南にあるプエルトリコです。大きなところではフランス領のギアナ、カリブ海にはオランダ領なども残っています。全部植民地時代の名残です。

普通この地域は中南米といわれていますが、もともと先住民がすんでいました。この間からテレビでインカやマチュピチュを放送していますが、これらは先住民（インディオ）の文化です。このインディオという呼び名は、日本でインディオの世界的研究者である清水透さんという方に聞いても、先住民とよりもインディオと呼ぶ方が問題をはっきりさせていいということです。インディオは2万年ぐらい前にアジアから、凍っているベーリング海峡を渡ってやってきてだんだん南下してきました。また、最近ではオセアニアの方から来た人も少しあると言われていています。インディオはもともと東北アジアから出ていて、赤ん坊には蒙古斑があります。このインディオが、インカ文明、マヤ文明、アステカ文明を作ってそれぞれが国家まで建設していました。

このインディオが住んでいるところに、1492年コロンブスが来てイベリア文化を持ち込んできました。それに、カリブ海では国家ができてないことから、スペインが植民を始めた時に先住民を奴隷として使いました。たとえばキューバでは20万人のインディオ（先住民）がいましたが、それが100年で絶滅してしまいます。そこでアフリカから労働力として黒人を奴隷として連れてきました。約1千万人が連れてこられたと言われていています。そのうち42%がカリブ海に、38%がブラジルに行っています。

ラテンアメリカの文化は、インディオ、イベリア、アフリカの3つが一緒になっている

文化といわれています。宗教はヨーロッパから来たカトリックが主流ですが、それに黒人が自分たちの宗教を重ねて、混合宗教（シンクレティズム）を作っています。キューバの音楽などもアフロ・クーバといわれ、ヨーロッパとアフリカの音楽が重なったものとなっています。それがエクアドルとかペルーに行きますと、インディオのメロディーが入り短調の曲が多くなっていきます。カリブ海では短調の曲はあまりありません。そのように 3 つの文化が一緒になっています。

◆国により違う人種構成と言語

人種構成から言えば、先住民が圧倒的に多いグアテマラ、ペルー、エクアドル、ボリビアなどはもともとアステカやインカなどの国家ができていたところです。メキシコなどは白人がかなり入っています。それから黒人の多いところは、パナマ、ドミニカ、コロンビアのカリブ海よりのところなどです。住民のほとんどが黒人のところはハイチ、ジャマイカです。先住民と白人と黒人が一緒になっている典型はブラジルです。ベネズエラも同じです。

言葉でもスペインが入ったところではずーとスペイン語が広がって行きました。メキシコとかアルゼンチンなど大体 18 か国はスペイン語が通じます。ただし、各国の歴史が進んでいきますから特殊な単語は国によって違います。アクセントも違います。ですから同じスペイン語で話していても、どこの国の出身であるかすぐにわかります。ブラジルはポルトガルが植民地化したのでポルトガル語、ハイチはフランスが植民地化したのでフランス語です。広大なカリブ海は、スペインが最初に全部植民地化したのですが、イギリスのキャプテン・ドレークなどの海賊が国と一体になってカリブ海の島を植民地化しました。したがってカリブ海のベリーズ、バハマ、ジャマイカなどでは英語を話します。オランダもスリナムを植民地としましたので、そこはオランダ語です。さらに先住民の言葉が 900 語ぐらいあります。主な言語ではグアラニー語で約 800 万人、ケチュア語で約 750 万人、アイマラ語で 150 万人などです。グアテマラでは 23 言語ぐらい残っています。先住民の地域ではスペイン語も話せますが、地元では先住民の言葉で話しています。

◆貧富の差の激しい 2 重構造の社会

このような地域ですが、貧富や土地所有の状況が大変偏っていることをまず頭に入れてください。たとえばボリビアでは、土地のジニ係数（一人が全部を占めれば 1.0 と表示され完全不平等を表し、みんなが平等に持てば 0.0 と表示される）が 0.9 で大変不平等です。ラテンアメリカのほとんどの国では 0.8 とか 0.9 ですから大変不平等な土地の持ち方になっています。日本も農地解放前の戦前の土地の持ち方は大変不平等でした。

次に所得の格差ですが、所得のジニ係数は大体 0.6 で、ほとんどが 0.5 以上になっています。相当貧富の格差がひどい社会です。ジニ係数で 0.5 以上あると危険だと言われています。日本の場合は 80 年代までは一億総中流といわれたように、わりと均質な社会でした。その時は 0.38 でした。今は、新自由主義により格差が広がり 0.5 を超え 0.52 となり、社会が殺伐としてきました。

このような社会では様々な 2 重構造があります。農村と都市の格差があり、農村の中でも大土地所有（ラティフンディオ）と小土地所有があり、都市では大きな企業と零細企業、労働分野でも公務員と未組織の民間労働者、社会的には少数の富裕な寡頭制勢力（オリガ

ルキア)と多くの貧しい市民などはっきりと分かれています。貧富の構造に人種が重なり、一般に白人が富裕階層を占め、混血が中間層、先住民、黒人が最下層と占めます。人種が、貧富の差と重なり、複雑な人種問題を作り出しています。

2、アメリカとラテンアメリカの関係

◆「アメリカの裏庭」と言われた歴史

このような状況のところに、アメリカ自身が自分たちの「裏庭」(欧米の裏庭は塀で囲まれ所有者が専一的に使用することになっていることからきていて、ラテンアメリカには誰も入れさせないという意味)と言うように、ラテンアメリカを支配してきました。アメリカが政治的・経済的に支配していくのは1930年代からです。1930年以前はイギリスが経済的に支配していました。アメリカの経済力は圧倒的で、GDPを比較すると、中南米の33か国が束になっても、アメリカの5分の1ぐらいにしかなりません。軍事力では、兵士の数は接近していますが、装備の面ではアメリカが空母を15隻保有しているのに対し、ラテンアメリカ33か国で1隻(アルゼンチン)しかありません。そういうことで、経済・軍事面では天と地の差、横綱と序の口程度の差があります。

ラテンアメリカとアメリカの間の貿易関係は密接で、ほとんどの国でアメリカへの輸出額が貿易輸出額の50%以上を占めています。そのぐらい密接な関係のある中での話ですが、自分たちの裏庭のように思っているアメリカですから、アメリカに反抗するような政権が出ますと、干渉してそれをやつけてしまうという歴史があります。こんな地域は世界にありません。中東もいろいろ侵攻を受けていますが、ラテンアメリカのように戦後から2012年の間に、14件もアメリカからの直接・間接の介入を受けた地域はありません。アメリカの直接の侵攻がグレナダ、パナマなど3件、傭兵による侵攻がキューバ、ニカラグアなど3件あります。干渉や侵攻を受け、主権を主張する政権に対する攻撃や政権の崩壊など、アメリカの介入を受けたところはグアテマラ、キューバ、ガイアナ、ブラジル、ドミニカ共和国、ボリビア、チリ、グレナダ、パナマ、ニカラグア、ベネズエラ、ホンジュラス、エクアドル、パラグアイの14か国・地域に及びます。アメリカが、いかに横暴だったかということがわかります。

◆アメリカはラテンアメリカを劣等な隣人と見ている

アメリカがラテンアメリカをどう見ているかということ、アメリカのラテンアメリカの研究者のラース・スコウルツという人は「米国は、常にラテンアメリカを基本的には劣等の隣人であり、事態の処理能力に欠け、頑迷なゆえに低開発とみなしてきたが、200年間その見方は変わっていない」と述べています。ロスアンゼルス空港のラテンアメリカに行く乗り換えのターミナルでは中南米の旅行客が多くいます。肌色が混血じみていて、背が低くて、持っているものがみすぼらしくて、沢山荷物を持ってその辺に横になっていて、貧しい人たちだなという感じがしてしまいます。そのぐらい、アメリカとの間で貧富の差があるのです。ピアスというアメリカの作家は「悪魔の辞典」という本の中で、「非アメリカ」という言葉は「邪悪な、許しがたい、異端の」という意味を持つと皮肉を込めて書いています。さらに1927年にロバート・オルズ國務次官は「中南米では、我々が承認し、支持する政府は権力に留まり、我々が承認しないし、支持もしない政府は倒壊するのだ」と述

べています。また、有名な言語学者のノーム・チョムスキー教授は「アメリカの真の敵は独立を求めるナショナリズムだ」と言っています。主権を主張する国は敵とされてしまうということです。

一方、ラテンアメリカ側がアメリカをどう見ているかという、シモン・ボリーバルというベネズエラ、ラテンアメリカの5カ国の独立のために戦った人の言葉では「米国は、自由の名のもとに米州を貧困で満たすよう、神の摂理によって運命づけられているように思われる」と述べ、アメリカは干渉してその国を貧困にしようと言っています。メキシコで20世紀前後に大統領になったポリフォリオ・ディアスは、有名な言葉ですが「かわいそうなメキシコよ、あまりにも神から遠く、あまりにも米国に近いとは」とアメリカにいじめられていることを嘆いています。あるいはキューバの独立運動に参加したホセ・マルティは、私の使命は、アメリカが強大な力でキューバよりさらに南の国々を支配しようとするのを、キューバの独立を持って阻止することだと、述べています。アメリカは自らを優越していると思いき、支配が当たり前と見ていますが、中南米はアメリカの支配を不幸ととらえ、アメリカから自立しようと考えています。両方からの見方が全く違います。

第二次大戦後のラテンアメリカにおけるアメリカの干渉

2012年まで14件、内、米軍の直接侵攻3件、傭兵による侵攻3件。

1954年 グアテマラのアルベンス左翼政権、CIA（米中央情報局）支援の傭兵の進入により倒壊。

1961年 キューバのカストロ政権打倒をねらい、アメリカのCIAに支援された傭兵がキューバのプラヤヒロンに侵攻するも、撃退され失敗に終わる。

1963年 英領ギアナで、マルクス主義者のチェッディ・ジェーガンが指導する人民進歩党が主導権をもって独立する動きに対し、ケネディ政権干渉し、バーンハム親米勢力が選挙で勝利する。

1964年 ブラジルの民族主義的グラール政権、CIAの支援を受けた軍部により打倒される。

1965年 ジョンソン政権下、ドミニカのボッシュ民族主義政権、カーマニョ大佐を指導者とする民主勢力、米軍侵攻より掣肘される。国連安保理、米州機構（OAS）は、米軍の即時撤退を要求。OASでは米軍を米州平和維持軍に交代させえる案でかろうじて過半数を獲得。チリ、エクアドル、メキシコ、ウルグアイ、ペルー反対、ベネズエラ棄権。

1971年 ボリビアのトーレス左翼軍事政権、CIAの支援を受けた軍部クーデターにより倒壊。

1973年 チリ、アジェンデ政権、CIAと呼応したピノチェットの軍事クーデターにより倒壊。国際世論から非難される。

1983年 10月25日、グレナダのモーリス・ビショップ左翼政権、米軍侵攻により倒壊。国連で非難される。12月2日の国連総会で、108対9、棄権27で侵略軍の即時撤退が可決される。

1989年 12月20日、パナマ民族主義政権、米軍侵攻により倒壊。国連で非難

される。12月20日開かれた国連総会では、米軍の軍事介入を国際法違反として、米軍の即時介入停止、撤退を要求した決議が、賛成75、反対20、棄権40の圧倒的大差で可決された。

1990年 ニカラグア、サンディニスタ政権、CIAの傭兵コントラとの長期干渉戦争により経済が疲弊し、選挙で敗北、下野する。アメリカの干渉ハーグ国際法廷で非難され、全面敗訴する。86年10月、ニカラグア、安保理事会にアメリカの干渉を提訴し国際法の遵守を訴えるも、米国一国反対し、拒否権発動。86年11月3日、国連総会で、コントラへの援助の中止緊急決議、賛成94、反対米国、イスラエル、エルサルバドルの3カ国、棄権47の圧倒的大差で可決。

2002年 ベネズエラ、チャベス左翼民族主義政権に対し、アメリカが支援したクーデター勃発するも失敗に終わる。

2009年 ホンジュラスで、国内の寡頭制勢力、軍部に自主的な立場をとるセラヤ大統領を放逐させ、国外に追放。

2010年 エクアドルの国家警察、ルシオ・グティエレス元大統領を扇動し、コレア大統領を一時軟禁。

2011年 ボリビアの「イシボロ・セクレ国立公園先住民領域」(TIPNIS)の保存事件。

2012年 パラグアイで、大土地所有者と提携し、ルーゴ大統領を弾劾、失職させる。

2014年 ベネズエラで極右勢力を扇動し、騒擾事件を起こす。

2015年 オバマ米大統領は、ベネズエラは米国の安全保障及び対外政策上の脅威であるとして、国家緊急事態を宣言する大統領令を出す。2016年3月延長

2015年 ブラジリアの連邦公共省(MPF)は、ルイス・イナシオ・ルーラ前大統領にたいする汚職疑惑捜査を開始。

2016年 ブラジル議会上院は、弾劾裁判でルセフ大統領の罷免を決める。

2017年 ベネズエラ、最高裁の判決をめぐる与野党対決に端を発し、野党過激派の暴力デモが行われ、7月末まで続き、死者120名を出す。

【ハイチ番外編】

1994年 9月18日 クリントン政権、カーター特使団をハイチに派遣、同特使団とセドラ将軍は、アリスティッド復帰、国連軍、米軍の上陸で合意に達する。しかし、セドラ、退任日を明確にせず、午後6時、クリントン、業を煮やし、ハイチ侵攻を指令。9月19日 米国ハイチに無血上陸、2万人の米兵。

2004年2月29日 米軍、大統領府に入り、アリスティッドを連行し、国務省さしまわしの飛行機で中央アフリカに。国連安保理事会が軍隊の派遣を討議するために開催されたとき、すでに200名の海兵隊が派遣されていた。

3、新自由主義政策の導入と貧困層の増加

◆ラテンアメリカでは対米自主の立場をとる国が60%を占める

しかし、悲惨なラテンアメリカの状況を何とかしなければなりません。21世紀になるころから、所得や土地所有の偏りや、所得水準の低さを何とかしなければならない、そのために、これらの状態を押し付けてきた新自由主義政策—80年代、90年代にラテンアメリカに悲惨な結果を押し付けた新自由主義政策をやめようという動きが強くなるとともに、新自由主義政策を押し付けたのはアメリカだからアメリカの支配から独立しようという2つの動きが絡まって、アメリカからの自立の動きが強まりました。

現在の時点で、このような各国の動きを分類してみますと、まず左翼政権が5か国あります。つまり、新自由主義をはっきりと批判してアメリカからの独立をはっきり言う政権は、キューバ、ベネズエラ、ニカラグア、ボリビア、エクアドルです。新自由主義を一応は批判しアメリカから独立しようという国が5か国あります。エルサルバドル、ドミニカ国、ジャマイカ、ウルグアイなどです。それから、新自由主義を批判しないがアメリカからの自主的な立場は大事だとしている中道政権の国が10か国あります。スリナム、ハイチ、チリ、ドミニカ共和国、セントビンセント及びグラナディーン諸島、アンティグア、バーブータほかカリブ海諸国4か国です。新自由主義を批判しないしアメリカからの自立する意思も持っていない国が13か国あります。主な国はアルゼンチン、ブラジル、コスタリカ、コロンビア、グアテマラ、メキシコ、パナマ、ペルーなどです。こうしてみるとアメリカに対し自主的な立場をとる国々が20か国になります。自主的な立場の国が60%以上を占めます。このような地域は世界で他にはありません。

◆クーデターとともに導入された新自由主義政策は貧困をもたらした

では、なぜこのような自立の動きがラテンアメリカにおいて広まって行ったのでしょうか。先ほどから新自由主義という言葉が出てきていますけれども、この経済政策の考え方は第2次大戦後に出現しました。1947年にスイスにモンペルラン協会という、共産主義と計画経済に反対することを目的とする経済学者の集団が結成されます。ここの人たちが、新自由主義＝規制を緩和し競争を促進し、資本主義の弱肉強食社会を一層推し進める政策を推進していったのです。ラテンアメリカで一番最初に新自由主義を入れたのはチリで、アジェンデ政権をクーデターで倒した時に、アメリカの新自由主義の経済学者フリードマンを信奉する人たちが入ってきて実施しました。そのあと74年にウルグアイ、76年にアルゼンチンと、どの国でもクーデターを起こした人たちが新自由主義政策をとり入れたのです。つまり、新自由主義の核心というのは力でもって経済政策を押し付けていくというところにあります。ですから強いもの勝ちです。ジャングルの掟で、つよいものが勝って、弱い者は自己責任だというような考えがそこにはあります。

80年代に新自由主義を世界的に導入したのが、レーガンとサッチャーと中曽根と言われています。中曽根さんの新自由主義は、ラテンアメリカから比べると、穏やかなものでした。ラテンアメリカでは70年代末に大変大きな対外債務をかかえ、その債務の免除を要請しますが、それに対してIMF（国際通貨基金）が、ああしろ、こうしろと大変な条件をいろいろ出してきました。そこで、国内で厳しい経済構造改革をやらざるを得なくなりました。市場の開放、あらゆる国有企業の民営化、労働条件の柔軟化（労働者が勝ち取ってきた労働条件の取り崩し）などが進められました。経済は後退し、市民生活水準も悪化しました。そのことからこの10年は「失われた10年」と呼ばれています。市民の生活は90

年代になると、構造改革がまだ足りないということで、これまで考えられなかった生活インフラまで民営化しました。鉄道、電気、水道、ガス、空港などです。水道などの民営化は公共サービスの低下をもたらしました。銀行などもどんどん民営化していきました。1988年から1995年までに755の国有企業が民営化され、当時の発展途上国の民営化額の半分を占めるに至りました。市民生活は一層悪化し、この10年は「絶望の10年」と呼ばれています。

このように世界に稀にみるような民営化を進めていって、もう民営化するものがなくなったという状況まで進みました。アルゼンチンなどがそうです。エクアドルでも派遣労働者が85%を占める状況になりました。社長と専務と総務部長以外はみな非正規社員というような、むちゃくちゃなことも起こります。所得と消費の低下が起こり経済は後退しました。ここまで進むと考え方が変わってきまして、ラテンアメリカの人が、「文化的な内容まで変えてしまった」と指摘しています。経済制度や政治制度だけでなく文化的変容が起こります。たとえば、いま日本でプロ野球に賭けの制度を入れようとしています。昔では考えられなかったことです。60年代には野球賭博にかかわったとして、球界を永久追放されたいいピッチャーもいました。名目はどうあれ、今の日本人は、賭博の導入が普通のように受け止めています。このような文化的変容が恐ろしいと思います。

弱肉強食、利己主義がどんどんと広まり、一般市民が政府を信じられない、政策から排除されている、自分とは関係ないと考えるようになるまで追い込まれてきました。貧困人口が大きく増えます。労働条件は悪化し、社会保障は低下しました。貧困ラインでみると80年代までは大体人口の40%が貧困ライン以下です。これが、90年代には48%になり貧困層や極貧の層が大きく増えてきました。

4、新自由主義政策に反対の政府の登場相次ぐ

◆ベネズエラで脱資本主義を掲げた政権誕生

これを何とかしなければならぬと、90年代後半から各国に新自由主義反対の政府ができていきます。そうすると貧困の人口が減ってきます。1990年に48%であった貧困層が2010年には38%になり、2014年には28%にまで減っています。80年代、90年代は新自由主義政策の下で貧困の人口が増えましたが、革新的な政府が出てくると貧困の人口が減ったというのが事実です。後の話になりますが、反転攻勢をかけられ新自由主義が復活した2017年から、また貧困層が増加していきます。

革新的な政府は、まず1999年にベネズエラでチャベスが大統領に当選して登場します。チャベスは「我々は資本主義からの離脱を目指す」ということを言います。そして、本当に国民が主人公になれるような憲法を作っていきます。12月には86%の賛成で新憲法が成立します。ベネズエラはきちんと選挙をやってきています。2000年7月に新しい憲法のもとでチャベスが大統領に再選されます。チャベスは独裁だという非難がありましたが、国民が憲法に基づいて選んだ結果です。その年の11月にアメリカではジョージ・ブッシュが、民主党のアル・ゴアを僅差で破って大統領に当選します。翌年の4月11日にはベネズエラで、米国が企画し主導したクーデターが起き、チャベスが幽閉される事件が起こります。これに民衆が怒りチャベスを取り戻そうと立ち上がります。その結果、4月14日

にはチャベスは釈放されて大統領に復帰しました。その後チャベスと政権を争うカプリレスなどはこのクーデターに参加しています。マドロー大統領を倒そうと暴力的反政府デモを組織した中心人物もこのクーデターに参加しています。現在ベネズエラにおいて、マドロー政権が独裁的なので野党が反対して立ち上がったように報道されていますが、それは昨日今日に起こったわけではなく、チャベスを支持し大統領にした勢力と、それをあらゆる手段で倒そうとする勢力の対立の構図が現在でも続いているということです。普通クーデターに参加したような人はそう簡単に出獄できないと思いますが、10年ぐらいで出てきています。次に反政府派は、2002年の12月に石油ストを実施し、石油の出荷をストップし経済的に困らせようとします。これは翌年には終結し政権が維持されます。

◆各国に反米自主の政権が次々登場

ブラジルでは、2003年1月にルイス・イナシオ・ルーラが大統領に当選します。彼は貧困撲滅、飢餓ゼロ作戦を推進していきます。彼が大統領選挙で言った言葉は「すべての国民に3度の飯を食わせたい」です。ルーラ氏時代、低所得層に支援金を出すなどして4000万人いた飢餓人口を半減させたと言われています。同年の5月にはアルゼンチンでネストル・キルチネルが大統領に就任します。この人は正義党の左派の人で、経済の民主的再建や軍政時代に約10万人が犠牲になっていますが、その真相究明を掲げます。パラグアイではこれまで独裁政権でしたが、同年8月ドワルテ氏が大統領に就任し、不正腐敗政治の一掃、失業・貧困の削減を掲げます。

2004年には、今度はパナマでトリホス将軍の息子のマルティン・トリホスが大統領選挙で勝利し、自主的な外交を展開します。このトリホス将軍という人は、アメリカが支配していたパナマ運河の管轄権をパナマに返せと要求し、当時のカーター大統領と交渉し2000年に管轄権をパナマに移管することの合意を取り付けました。そのようにトリホス将軍は民族主義的な主張の強い人でしたが、謎の飛行機事故（CIAの仕業とも言われています）で亡くなります。その息子が大統領になりましたので、当然自主的な外交を展開していきます。トリホス将軍のもとにいたパナマ国防軍というのは民族主義的な傾向を持っていたので、1989年にアメリカは、ノリエガ将軍が麻薬取引を行っているという口実のもとに、パナマに直接侵攻しパナマの軍隊を解体してしまいました。10数年前に一度アメリカに侵攻され、苦い思いをした国から民族主義的政権が出てきたのは画期的なことです。それから、次にウルグアイで社会党と共産党の革新統一の拡大戦線というのがあって、それが1970年代から統一戦線で選挙を戦ってきましたが、ようやく2004年10月の大統領選挙で勝利し、タバレ・バスケスが大統領に就任しました。また、メキシコではサパティスタという民族解放軍を組織していた人たちが、武装路線を放棄し政治活動に方針転換するという画期的なことが起きました。

さらに、新自由主義に反対あるいは対米自主路線の政府の登場が相次ぎます。2005年12月にはボリビアで、「地域住民社会主義」を唱える先住民のエボ・モラーレス氏が大統領に当選。同じ12月に、ホンジュラスで中道右派のマヌエル・セラヤ氏が大統領に当選。この人は「アメリカの奴隷として生まれたわけではない」、いちいちアメリカの許可を得る必要はないと主張し、2008年にはALBA（ボリーバル同盟）にも入りますが、アメリカにいらまれ、2009年にクーデターで追放されます。さらに、2006年1月にはチリで社会

党のバチェレ中道政権が発足。9月にはガイアナでマルクス主義を唱えるバーラト・ジャグディオ氏が大統領に当選。11月にニカラグアで、一度政権から降りたサンディニスタ民族解放戦線のダニエル・オルテガ氏が再び大統領に当選。同じ11月に、エクアドルで新自由主義と決別し「市民の革命」を目指すとしたラファエル・コレア氏が大統領に当選。2007年11月にはグアテマラで、左派「国民希望同盟」のアルバロ・コロン氏が大統領に当選。2008年4月にはパラグアイで、新自由主義反対を強く唱える左派のフェルナンド・ルーゴ氏が大統領に当選と、続きました。2006年当時の朝日新聞にラテンアメリカの政治地図が載っていましたが、反米左派4か国（キューバ、ベネズエラ、ボリビア、エクアドル）中道左派6か国（ニカラグア、ペルー、チリ、アルゼンチン、ウルグアイ、ブラジル）となっています。気が付けば赤の地域になっていたわけです。なぜそうなったか、責任は新自由主義にありました。

◆アメリカ主導の地域協力機構の頓挫

2004年に南米で自分たちだけの共同体を作って協力を強めようという動きが起こり、12月に12か国で南米諸国共同体（CSN、その後南米諸国連合、UNASURに発展）を結成しました。さらに同月、ベネズエラのチャベスとキューバのカストロが話し合っただけで本当に独立した政権が集まって協力しようということでALBA（米州ボリーバル的対案）を結成しました。このように自主的な地域協力機構が生まれる中で、アメリカ主導の地域協力機構結成の試みが挫折します。アメリカは米州自由貿易地帯（FTAA）というのを作ろうと各国に働きかけてきたわけですが、2004年11月のアルゼンチンのマール・デ・ラ・プラタで行われた米州首脳会議で、参加を否定する意見が相次ぎ、合意できずにFTAAが頓挫する事態になりました。アメリカはこのFTAAの代わりにTPP（環太平洋連携協定）の結成に乗り出していきます。これがTPPの始まりです。

5、2007年、アメリカの主導権奪還の反転攻勢が始まる

このような事態に対し、2007年を境に、アメリカが反転攻勢を開始します。1990年代から2007年の間に進歩的な勢力が大きく伸びてきましたが、2007年からアメリカ、各国の保守勢力や寡頭制勢力が結びついた反動構成が始まります。2007年の11月にヒラリー・クリントン氏は「我々は中南米での影響力を回復しなければならない。ブラジル、メキシコの民主主義を支持し、アルゼンチン、チリと経済的・戦略的協力を強化し、同盟国のコロンビア、中米、カリブ諸国と引き続き協力する。」と語っています。他国に対して「影響力を回復する」と平気で言えるところがアメリカの恐ろしいところです。このところでは、つまり、ベネズエラ、キューバを敵に回していくと言っているわけです。また、2008年3月には米政府の援助のもとで、アルゼンチンのロサリオにおいて、アスナール元スペイン首相、キロガ元ボリビア大統領、フォックス元メキシコ大統領、作家のバルガス・リョサなどの国際的に著名な反動政治家、作家、文化人が会議を開き、「大陸規模の反攻」について議論します。この会議の年から反動攻勢が始まったという人もいます。

◆各国での反米政権打倒の動き

アメリカはこの時期に親米勢力への軍事援助を強め、2000年には14億4400万ドルでしたが、2007年には20億7000万ドルに増加します。同時に左派政権を覆すために、そ

れぞれの国の事情に応じた手を打ってきます。たとえば、ボリビアでは 2007 年後半、豊かな地帯である東部 4 県の独立運動が起きますが、これはモラーレス打倒の運動でもあります。また、エクアドルでは、2008 年 3 月にコロンビア軍が反政府勢力を追って、エクアドル国境を越境し攻撃をしてきました。これにはラテンアメリカ諸国がコロンビアの主権侵害行為を一斉に非難しますが、これもコレア政権の打倒が狙いです。ホンジュラスで 2009 年 6 月に、米務省シナリオのクーデターが成功しセラヤ大統領が追放されます。さらに、エクアドルでは、2010 年 10 月、警官の賃上げ問題に端を発し、コレア大統領が警察・軍隊の一部により警察病院に 10 時間軟禁され、軍により救出される事件が起きました。

◆一方、対米自立の動きはさらに続く

このような反動攻勢が個々に見られるものの、2007 年から 13 年の間に行われた選挙で、新たにグアテマラで左派のアルバ・コロン氏が、パラグアイで新自由主義反対の左派フェルナンド・トーゴ氏が、エルサルバドルで民族解放戦線推薦のファラブンド・フネス氏が、ペルーで「アンデス・アマゾン社会主義」を掲げるオジャンタ・ウマラ氏がそれぞれ大統領に当選します。また、ベネズエラのチャベス大統領をはじめとして、ボリビアのモラーレス大統領、エクアドルのコレア大統領、ブラジルでルーラ政権を継承するルセフ大統領、アルゼンチンのキルチネル路線を継承するクリスティーナ・フェルナンデス大統領、ニカラグアのオルテガ大統領、ウルグアイでバスケス政権を継承するホセ・ムヒカ大統領、チリのミチェレ・バチェレ大統領がそれぞれ勝利しています。

このような結果として、2011 年 12 月にアメリカ、カナダを除く中南米・カリブ諸国 33 か国が参加する中南米カリブ海諸国共同体（CELAC）が設立されました。アメリカの影響力を排除し、中南米・カリブ諸国全体が結集して共同体を作る試みが始まったことは画期的でした。2014 年の第 2 回首脳会議では中南米・カリブ海平和地帯の創設が合意されました。一方、2012 年 4 月に開催された、アメリカ、カナダを含む 35 か国が構成する米州首脳会議では、ニカラグアのオルテガ大統領、エクアドルのコレア大統領がキューバの不参加は不当として欠席し、30 か国の開催となりました。また、同年 6 月には軍事同盟であるリオ条約について、ボリビア、ベネズエラ、ニカラグア、エクアドルが「正式な廃棄通告」を行いました。

◆支配体制の再構築に向かうアメリカ

各国に左派政権ができ、アメリカの中南米に対する影響力が大きく低下する中で、アメリカは個々の左派政権を覆す働きかけを強めつつ、親米政権への軍事援助等でのテコ入れを図るなど、全体への影響力の回復を図ろうとしています。2008 年には中南米を活動エリアとする第 4 艦隊を 58 年ぶりに復活させます。2009 年 1 月にヒラリー・クリントン国務長官は、スマートパワーの使用に言及し、外交的、経済的、軍事的、政治的、法的、文化的方法があり我々はすべて準備できていると述べています。同年 4 月にはオバマ大統領が第 5 回米州首脳会議で演説し、「西半球で対等のパートナー関係を追及することを貴方に固く約束する。我々の関係には上下関係はない」と述べます。それまで上下関係であったことを言外に認めています。アメリカとの新しい関係を提唱し影響力の再構築を図ったオバマ大統領のこの発言も、参加諸国に額面道理受け止められなかったことは、中南米・カ

リブ諸国が 2011 年の CELAC 結成に向かったことを見ればわかります。さらに、2013 年 4 月にはアメリカのケリー国務長官は「モンロー・ドクトリン」（中南米はアメリカの裏庭とする考え方）の「時代は終わった」とし、「互いを平等とみなす」ことなどを特徴とする新しい関係の構築を改めて強調します。しかし、アメリカは 2012 年 6 月にコロンビア、チリ、メキシコ、ペルーの参加する太平洋同盟（国境を越えた、ヒト、モノ、カネの自由な移動と取引）を結成し、中南米の結束にクサビを打ち込みます。

2014 年段階のアメリカの外交政策の特徴は、第 2 次大戦後のシステムの維持、アメリカのリーダーシップの維持・確保、力の発揮による指導です。第 2 次大戦後のシステムの維持については、「米国および米国と志を同じくする他の諸国が確立した国際的な法的機構、経済・政治制度、そして同盟としてのパートナーシップに大きく依拠している。アメリカの力強いリーダーシップによって、このシステムは 70 年間にわたってよく機能し、国際協力、負担の分担、説明責任を促進してきた」と評価し、そのためにアメリカのリーダーシップが欠かせないとするもので、中南米諸国に対しリーダーシップを取ろうとするアメリカの様々な工作も、この外交政策に根拠を持っています。

6、経済的困難を利用したアメリカの更なる反転攻勢

中南米の国民総生産（GDP）成長率は、2012 年 2.9%、2013 年 2.8%、2014 年 1.2%、2015 年 0.4%と 14 年から 15 年にかけて全般的経済不況に陥ります。全般的経済不況では国家財政を困難にし、市場経済の下では弱者に犠牲がしわ寄せされますので庶民の不満が高まります。こうした庶民の不満を利用して、アメリカと各国の保守・反動勢力が結びついて左派政権の親米政権への置き換えを図る動きを強めてきました。

◆ベネズエラ、ブラジル、アルゼンチン

ベネズエラでは、2014 年 4 月、マドゥーロ政権転覆を狙い「出口」と称する反政府計画が実行され、43 名の死者、数百人の負傷者を出し、首謀者の「大衆意志党」のレオポルド・ロペスが出頭し、逮捕されるという事件が起こります。2015 年になると、オバマ大統領は、ベネズエラは米国の安全保障及び対外政策上の脅威であるとして、国家緊急事態を宣言する大統領令を発し翌年にも延長します。2017 年 4 月には最高裁の判決を巡る暴力デモが発生。7 月には政権側が、憲法を審議する制憲議会議員選挙を実施し、政権側の議員が多数当選します。こうしてベネズエラ国内では、2015 年の国会議員選挙で多数を握った野党主導の国会と与党が握る制憲議会との対立になりますが、この事態を打開するため、2018 年の 1 月から与野党協議が行われています。一度秩序回復のための合意が行われても、アメリカ大使館の差し金で覆るなど、アメリカの干渉が国内の合意の障害になっています。

ブラジルでは、2014 年 3 月に、石油会社ペトロブラスに関する汚職事件に、前大統領のルーラ氏と、後継の大統領のルセフ氏が巻き込まれますが、4 月の大統領選挙でルセフ氏は再選されます。さらに 2016 年 5 月、ルセフ大統領が政府会計を不正操作した疑いで議会上院の弾劾裁判にかけられ、罷免させられます。代わりに、テメル副大統領が就任しますが、15 年続いた左派政権が終わりを告げます。また、ルーラ元大統領は 2018 年の裁判で収賄と資金洗浄の疑いで禁固 12 年の判決を受け、大統領選への出馬資格を失います。

アルゼンチンでは、2015 年 11 月の大統領選挙でマウシオ・マクリ氏が決選投票で正義

党のダニエル・シオリ氏を逆転で破り、12年間続いた左派勢力は政権を失います。

このような各国での左派勢力が後退する中で、2017年8月、アメリカの主導のもとで、ペルーのリマにおいて親米の「リマ・グループ」が結成されます。参加国は、アルゼンチン、ブラジル、カナダ、チリ、コロンビア、コスタリカ、グアテマラ、ホンジュラス、メキシコ、パナマ、パラグアイ、ペルー、ガイアナ、セントルシアです。このうち、アルゼンチン、カナダ、コロンビア、メキシコ、パラグアイは、国連での、アメリカにエルサレム首都認定の撤回を要求する決議に棄権しています。アメリカの影響力が見て取れます。

◆トランプ政権による更なる反動としのぎ合い

2018年にアメリカで、アメリカ・ファーストを掲げるトランプ氏が大統領に就任します。トランプ氏は、キューバ、ベネズエラの共産主義、社会主義独裁政権に対し、厳しい制裁を科したと一般教書で述べ、オバマ政権時代に国交回復したキューバに対しても敵視政策を強化します。また本年2月国務長官（当時）、ティラーソン氏はラテンアメリカ歴訪（その目的はベネズエラ包囲網の強化でしたが）「西半球における米国の関与」について、「我々は『モンロー・ドクトリン』の重要性やそれがこの西半球に意味したこと、共有する価値の保持について忘れていない。だから、当時と同様、今日も重要だと思う」と「裏庭政策」への回帰を強調しています。

しかし、中南米で親米政権が増える中、2014年に28.2%まで下がった貧困ライン以下の層は、2017年にふたたび30.7%に増加し始めました。対象となる人口では2014年に16800万人まで下がりましたが、2017年には18700万人と、2008年の18040万人を上回り、左派政権登場以前に逆戻りする趨勢です。アメリカは様々な手段で、各国の保守・反動勢力と結びついて中南米への影響力の回復を図っていますが、それが各国民の生活の向上に結び付いているわけではなく、ここを勢力圏、支配地域と見るアメリカと、アメリカの支配を不幸と考える中南米の人々との、しのぎを削る戦いがこれからも続くと考えます。

現在のラテンアメリカの事情を見ると、2007年から始まったアメリカの左派勢力に対する反転攻勢、新自由主義政策の新たな押し付け、さらにトランプ超右翼政権による一層強まった攻勢の中で、いろいろな事件が生じていることを見落としてはなりません。

（文責 岡阿弥 千葉 AALA 理事長）

《資料》

ラテンアメリカにおける進歩と反動年表

2000～2018

註：◎は進歩、△は進歩的、▼は反動、▶は反動的

1959年1月

◎キューバ革命勝利

1999年1月

◎ベネズエラ、チャベス、大統領に就任、資本主義から離脱をめざすボリーバル革

命を開始

1999年12月

◎ベネズエラ、憲法制定国民投票で86%の賛成で新憲法を採択。

2000年7月

◎ベネズエラ、新憲法下の大統領選挙で、チャベス、大統領に再選される。

2000年7月

▶メキシコ、大統領選で、「変化のための同盟」の右派ビセンテ・フォックス（PAN 国民行動党）当選。PRI 制度的革命党、1929年の創設以来初めて大統領選で敗退。

2000年11月

▶米国、大統領選で、共和党のジョージ・W・ブッシュ、民主党のアル・ゴア候補を接戦で破り、当選。

2002年4月

◎ベネズエラ、4月11日チャベス大統領、米国主導のクーデターにより幽閉されるも、4月14日釈放され復帰。

2002年5月

▼コロンビア、大統領選で右派のアルバロ・ウリベ（自由党）勝利。

2002年12月

▼ベネズエラ、反政府派石油ストを実施するも、翌年2月終結。

2003年1月

◎ブラジル、ルイス・イナシオ・ルーラ（労働党 PT）、大統領に就任、貧困撲滅、飢餓ゼロ作戦を推進

2003年3月

キューバ政府、米国に指導された反体制派75名を逮捕。

2003年5月

◎アルゼンチン、ネストル・キルチネル（正義党＝ペロン党左派）大統領に就任、経済の民主的再建、軍政の真相究明

2003年8月

◎パラグアイ、ドゥワルテ大統領、不正・腐敗政治の一掃、失業・貧困の削減を掲げ清新政治の登場

2003年1月

△エクアドル、グティエレス政権、パチャクティック新国家運動（MUPNP）という先住民の運動との連立内閣を作り、汚職、貧困とたたかい、無料の医療制度、低価格の家賃を推進するとともに、外交面では、自主的な立場を強調する。なお、グティエレス政権、その後米国政府に懐柔される。

2003年12月

▶グアテマラ、大統領選で、右派の大国民同盟のオスカル・ベルヘル、左派のアルバル・コロンを打ち破り当選。

2004年5月

◎パナマ、トリホス将軍の息子、マルティン・トリホスが大統領選挙で勝利。自主

的外交を展開。

2004年10月

◎ウルグアイ、大統領選で革新統一「拡大戦線」のタバレ・バスケス当選

2004年11月

▶米大統領選で、共和党のジョージ・W・ブッシュ再選。

2004年12月

◎CSN（南米諸国共同体）結成

2004年12月

◎ALBA（米州ボリーバル的対案）設立

2005年5月

△米州機構の事務総長の選挙で、米国が押すメキシコのデルベス候補を破って、ラテンアメリカ・カリブ海諸国が押すチリのインスルサが選出される。

2005年9月

△メキシコ、サパティスタ民族解放軍（EZLN）、武装路線を放棄、政治活動に転換。

2005年11月

◎マール・デ・ラ・プラタ米州首脳会議、FTAAを合意できず、合意書は推進、非推進の両論併記。FTAAルート頓挫。

2005年12月

◎ボリビアで先住民大統領、エボ・モラーレス（ボリビア社会主義運動）当選、地域住民社会主義の推進を提唱

2005年12月

◎米国のラテンアメリカでの反共政策推進の橋頭堡、ホンジュラスで、マヌエル・セラヤ（中道右派）、右翼候補を破り大統領に当選。08年、自主的立場を取り、ALBAに加盟。

2006年1月

△社会党のミチェル・バチェレ中道政権発足、民主化の過程を堅持

2006年2月

◎ハイチで希望党のプレバル、大統領に当選

2006年4月

△ペルー、「ペルーのための団結」ウマーラ候補、第一次大統領選挙で首位、6月決戦投票でAPLAのアラン・ガルシアに惜敗

2006年5月

▼コロンビア大統領選で右派のアルバロ・ウリベ圧勝。投票率45%。

2006年7月

◎メキシコ、革新候補、民主革命党のロペス・オブラドール候補、新自由主義を進める保守政党のPANのフェリーペ・カルデロンに不正選挙により僅差で惜敗。しかし、実質的には勝利していた。

2006年7月

フィデル・カストロ議長の子供の病気により一時的に、①党第一書記、②軍最高司令官、

③国家評議会議長・閣僚評議会議長の権限をラウル・カストロに委譲する。

2006年9月

◎ガイアナでマルクス主義を唱える人民進歩党のバーラト・ジャグデオ、大統領選で圧勝

2006年10月

▼ブッシュ大統領、麻薬取締強化のため、米墨国境強化フェンス建設法に署名。

2006年10月

◎ブラジルでルーラ大統領再選される。

2006年11月

◎ニカラグアで、サンディニスタ民族解放戦線ダニエル・オルテガ、大統領選で勝利。1990年の選挙でチャモラ候補に敗れて下野し、苦節16年ぶりに大統領に復帰。

2006年11月

◎エクアドル、「祖国同盟」コレア、大統領選で大勝。新自由主義資本主義と決別して、「市民の革命（レボルシオン・シウダダーナ）」をめざすと宣言。

2006年11月

◎国連安保理の非常任理事国のラテンアメリカ枠の選出にあたり、米国グアテマラを推薦。ベネズエラ、グアテマラの支持が拮抗、結局パナマが非常任理事国に選出。

2006年12月

▼メキシコ、カルデロン大統領、「麻薬戦争」を宣言し、麻薬掃討作戦を展開。

2006年12月

◎ベネズエラ、チャベス大統領、大差で再選

2007年4月

△CSN(南米諸国共同体)、名称を UNASUR (南米諸国連合) に改称。

2007年10月

◎アルゼンチン、クリスティーナ・フェルナンデス、新自由主義反対のキルチネル路線を継続し、大統領に当選。

2007年11月

▼クリントン国務長官、「ブッシュ政権は中南米政策をおろそかにしてきたが、われわれは、中南米での影響力を回復しなければならない。ブラジル、メキシコの民主主義を支持し、アルゼンチン、チリと経済的・戦略的協力を強化し、同盟国のコロンビア、中米、カリブ諸国と引き続き協力する」と主張。

2007年11月

◎グアテマラ、左派「国民希望同盟」のアルバロ・コロソ、オットー・ペレス・モリーナ愛国党、右派を破り大統領選で当選。

2007年11月

▼ブッシュ政権、メキシコ・中米における麻薬取引、組織犯罪に対する対策という口実で、地域の新たな安全保障政策、メリダ・イニシアチブ（メキシコ計画とも呼ばれる）を策定。

2007年12月

▼ブッシュ政権のラテンアメリカへの軍事援助は、2000年の14億4,400万ドルから、2006年には13億2,500万ドル、2007年20億7,000万ドルとなる。2016年度5億6,800万ドル。

2007年後半

▼ボリビアで、東部4県の独立運動強まる。

2008年2月

△キューバ、ラウル・カストロ、国会議員選挙後、国家評議会議長に就任。

2008年3月

▼コロンビア軍エクアドル国境を越境し、FARC指導者ラウル・レイエスを殺害(サントス国防相)。エクアドル、ベネズエラと外交関係悪化。ラテンアメリカ諸国がコロンビアの主権侵害行為を一致して批判、テロとのたたかいでは国境を越えた攻撃もありうるとするコロンビアの主張を支持する国は最後まで米国だけ。メキシコの有力紙「ホルナダ」13日付に掲載されたアンヘル・ゲラ・カブレラ氏の論評「ラテンアメリカには米国抜き協議の場が必要だ」は、リオ・グループの会議での決着について「ブッシュ〔米政権〕にまたしても苦い敗北を味合わせるものだった」と指摘。

2008年3月

◎ネルソン・ジョビン、ブラジル国防相とロバート・ゲーツ米国防長官との会談

2008年3月

▼米国政府の援助のもとで、アルゼンチンのロサリオでアスナール元スペイン首相、フォックス元メキシコ大統領、キログ元ボリビア大統領、作家バルガス・リョサなどの国際的に著名な反動政治家・文化人が会議を開き、「大陸規模の反攻」について議論する。

2008年4月

◎パラグアイ、新自由主義反対を強く唱える「変革のための祖国同盟」の左派、フェルナンド・ルーゴ、大統領選で大勝。

2008年7月

▼米政府、58年ぶりに第四艦隊を復活

2008年8月

◎ボリビア、モラーレス大統領、国民投票において大差で信認される。

2008年9月

◎エクアドル、国民投票で圧倒的多数で革新的な憲法を承認。大統領任期、4年、二期連続可能となる。

2008年11月

米、大統領選で民主党のバラク・オバマ当選。

2008年12月

◎南米防衛評議会(CDS)、UNASURの中に設立

2009年1月

▼クリントン国務長官、スマート・パワーの使用の必要性を発言。それには、外交

的、経済的、軍事的、政治的、法的、文化的方法がり、われわれは、すべて準備できていると述べる。

2009年2月

◎ボリビア、憲法改正で、大統領任期5年連続二期可能となる。

2009年3月

◎エルサルバドルでファラブンド・マルティ民族解放戦線推薦のマウリシオ・フネス、大統領に当選

2009年4月

△第5回米州主脳会議で、オバマ大統領、西半球で対等のパートナー関係を追求することを貴方がたに固く約束する。われわれの関係には、上下関係はない

2009年4月

◎エクアドル、大統領選で、ラファエル・コレア圧勝し、再選。

2009年5月

▶パナマ、大統領選で中道右派のカルロス・マルティネリ、左派候補バルビーナ・エレナを破り当選。中道左派のトリホス政権引き継げず。

2009年6月

◎第39回米州機構(OAS)総会で、1962年1月31日にOAS外相会議で採択された、キューバ排除決議が、35カ国中、34カ国の賛成で（キューバは出席せず）無効であることが満場一致で決議される。

2009年6月

▼ホンジュラス、セラヤ大統領、米國務省シナリオのクーデターで放逐される。自由党のロベルト・ミチェレッティが暫定大統領に就任。

2009年9月

◎エクアドル、マンタ米軍基地、エクアドル政府、基地更新契約（1999年～10年間）を行わず、エクアドルに返還される。

2009年11月

◎ウルグアイ大統領選、拡大戦線のホセ・ムヒカ当選。

2009年12月

◎ボリビア、エボ・モラーレス、大差で再選される。

2010年1月

▶チリ、大統領選で変革のための同盟、右派のセバスチャン・ピネエーラ、決戦投票で民主主義のための連合候補エドアルド・フレイ（キリスト教民主党）を打ち破り勝利。

2010年3月

▶米国 QDR で、引き続きブラジルと密接な関係を継続すると述べる。

2010年6月

コロンビア大統領選、ファン・マヌエル・サントス当選。投票率49%。

2010年9月

▼エクアドル、警官の賃上げ問題に端を發し、ラファエル・コレア大統領、一部警

察・軍部隊により警察病院に 10 時間軟禁される、クーデター未遂事件起きる。エクアドル軍により、救出され解決する。

2010 年 10 月

◎ブラジル、大統領選で与党・労働党（PT）のジルマ・ルセフ、当選し、ルーラ政権の政策継承。

2011 年 3 月

△ハイチ、大統領選でミシェル・マテリ（プロ歌手）「腐敗根絶」や「変革」を掲げて当選。

2011 年 6 月

◎ペルー大統領選で、オジャンタ・ウマールラ政権成立。ペルー国民主義党(PNP)新自由主義資本主義に代わるものとして、『アンデス・アマゾン社会主義』を追求する。

2011 年 9 月

▶グアテマラ、大統領選で愛国党(PP)のオットー・ペレス・モリーナ当選。

2011 年 10 月

◎アルゼンチン大統領選で、自主的な対外政策を貫き、貧困削減などで成果を上げてきた現職のクリスティーナ・フェルナンデス現大統領が大差で再選

2011 年 11 月

◎ニカラグアで、大統領選挙、サンディニスタ民族解放戦線（FSLN）のオルテガ大統領が圧勝し、再選。

2011 年 12 月

◎CELAC(中南米カリブ海諸国共同体) 設立。

2012 年 2 月

◎コロンビア、政府・FARC、予備的対話開始。

2012 年 4 月

△第 6 回米州首脳会議（1994-）エクアドルのコレア大統領、ニカラグアのオルテガ大統領は、キューバの不参加は不当として、会議に欠席米州 35 カ国のうち 30 カ国、29 人の首脳が出席

2012.06.12

▶太平洋同盟結成コロンビア、チリ、メキシコ、ペルー加盟、ヒト、モノ、金の自由な取引をめざす貿易協定

2012 年 6 月

◎第 42 回米州機構(OAS)総会ボリビア、ベネズエラ、ニカラグア、エクアドルがリオ条約の「正式な廃棄通告を行う」

2012 年 6 月

▼パラグアイ、フェルナンド・ルーゴ大統領保守派が絶対多数を占める上院の弾劾決議によって罷免される。

2012 年 7 月

△メキシコ、民主革命党のオブラドール候補、不正選挙で制度的革命党(PRI)惜敗

2012年10月

◎ベネズエラ、大統領選でチャベス再選される。

2012年11月

△米、大統領選でバラク・オバマ再選。

2013年2月

◎エクアドル、ラファエル・コレア、大統領選で圧勝、三選される。

2013年3月

チャベス大統領死去。

2013年4月

◎ベネズエラ、大統領選挙実施。偉大なる祖国勢力(GPP)、ボリーバル革命推進派の統一候補ニコラス・マドゥーロが、民主統一会議(MUD)のカプリーレス・ロドンスキイーの挑戦を僅差で退ける。

2013年10月

△チリ、中道左派のミチェレ・バチェレ、大統領選で勝利。

2013年11月

△ケリー米 국무長官「米国がラテンアメリカへの介入を宣言した 1823 年の『モンロー・ドクトリン』について、歴代大統領がそれを強化してきたことを認めたいので、その『時代は終わった』とし、『互いを平等とみなす』ことなどを特徴とする新しい関係の構築を強調。

2013年11月

▼ホンジュラス、大統領選で親米右派与党・国民党のフアン・エルナンデス国会議長が、左派野党・自由再建党のシオマラ・カストロ（セラヤ元大統領夫人）を選管発表では 34%と約 29%を破り当選。野党、選挙不正と抗議。外国の非政府組織(NGO)の選挙監視団は相次いで、選挙の不正を指摘

2014年1月

▶ホンジュラス、大統領選で国民党のポルフィリオ・ロボ選出される。

2014年1月

◎第2回中南米カリブ海諸国共同体(CELAC)首脳会議、中南米・カリブ海平和地帯を創設

2014年1月

◎コロンビア、ELN(民族解放軍)と政府、和平交渉準備会談、キトで開始。

2014年1月

▼ベネズエラ、ニコラス・マドゥーロ大統領の辞任或は転覆の強制を言う表現として「出口」と称する反政府計画が、「平和的デモ」への呼びかけを通じて実行に移される。43名死亡、878名の死傷者が出る。首謀者、「大衆意志党」レオポルド・ロペス出頭、逮捕される。

2014年3月

▶米 QDR 西半球でのプレゼンスの増大を掲げる。

2014年3月

▼ブラジルで、ガソリンスタンドの通貨取引不正逮捕に端を発し、洗車作戦で関係者逮捕され、ペトロブラス汚職事件に発展。ルーラ、ルセフ巻き込まれる。セルジオ・モロ判事担当（米国国務省で訓練を受けた経験あり）。

2014年3月

◎エルサルバドル大統領選、ファラブンド・マルティ民族解放戦線のサンチェス・セレン勝利し、FMLNの政権を維持。

2014年4月

▼米国開発庁（USAID）対キューバ・ツイッター、SNSスネーロ工作を行う。キューバ政府、USAIDのツイッター工作を批判。

2014年5月

△パナマ、大統領選、中道のファン・カルロス・バレラ当選。

2014年5月

▼オバマ大統領、「米国は常に世界の舞台をリードしなければならない。世界の平和と繁栄を確保するためにリードする」

2014年6月

▼コロンビア大統領選、ファン・マヌエル・サントス大統領再選。投票率40%。

2014年10月

◎ボリビア、大統領選でエボ・モラーレス、大差で三選される。2009年2月の憲法改正で、任期5年連続二期可能となった。

2014年10月

◎ブラジル、ジルマ・ルセフ大統領再選、革新政権4期目。

2014年11月

◎ウルグアイ大統領選で、拡大戦線のタバレ・バスケス当選。

2014年12月

◎米玖、国交回復交渉を合意

2015年3月

▼ルセフの汚職疑惑に対し百万人規模のデモが起きる。エドゥアルド・クーニャ上院議長、政界、産業界、マスコミ、米国の支援を受けてルセフ追い落とし批判展開される。

2015年3月

▼オバマ米大統領は、ベネズエラは米国の安全保障及び対外政策上の脅威であるとして、国家緊急事態を宣言する大統領令を発出。2016年3月延長、

2015年4月

グアテマラで、グアテマラ刑事免責国際委員会、税関汚職事件の容疑で24名を逮捕。密輸事件となる。

2015年5月

◎米政府、キューバを1882年以来指定していた「テロ支援国家」リストから解除。

2015年7月

◎米玖双方が大使館を開設

2015年7月

▼ブラジリアの連邦公共省（MPF）は、ルイス・イナシオ・ルーラ前大統領にたいする汚職疑惑捜査を開始。

2015年9月

△グアテマラの司法当局は3日、税関を舞台とする組織的な汚職事件に関与した疑いで、オットー・ペレス・モリーナ大統領の逮捕状を出した。4日同大統領は辞任するも逮捕される。税関汚職事件では、輸入関税を見逃してもらおう見返りとして企業などから多額の賄賂が政界に流れたとされ、5月に閣僚数人が辞職している。

2015年10月

▼グアテマラ、大統領選で国民合同戦線 FCN-Nación 右派のジミー・モラーレス、中道左派で「国民希望同盟」のアルバロ・コロ元大統領夫人、サンドラ・トレス氏（60）を破り、当選。

2015年10月

ハイチ、大統領選で、農業優先を掲げる、ジョブネル・モイーズ当選。

2015年11月

▼アルゼンチン大統領選挙で、変革勝利のマクリ、勝利のための戦線、ダニエル・シオリ（正義党）を決戦投票で逆転勝利する。左派勢力12年間続いた政権を失う。

2015年12月

▼ベネズエラ国会議員選挙、反チャベス派、大差の勝利。MUDが総議席167の絶対多数、3分の2、112議席を獲得、GPPは議席数は55議席に激減した。

2016年1月

▶オバマ大統領、「要するに、21世紀におけるアメリカの指導力とは、軍事力の賢明な適用であり、世界を正しい大義のもとに結集することだ。それは、外国への援助についても、単体としてみるのではなく、慈善でもなく、国家安全保障の一部とみなすことを意味する」と述べる。

2016年3月

▼南米ブラジルの連邦警察は4日、国営石油会社ペトロブラスに絡む一連の汚職事件で、不正に利益を得た疑いがあるとして、ルーラ前大統領から事情聴取。自宅や関係先の捜索も始める。

2016年3月

▼ルイス・アルマグロ OAS 事務局長、ベネズエラへの干渉政策と旺盛に展開。

2016年4月

▶ペルー大統領選、右派の「変革のためのペルー人」ペドロ・パブロ・クチンスキー当選。

2016年5月

▼ルセフ、ブラジル大統領、政府会計を不正操作したとの理由で、大統領に対する弾劾裁判を行う法廷設置を上院賛成55、反対22で可決し停職。180日間の職務停止となったためテメルが大統領代行に就任した。テメルはこれを受けて5月12日に新しい閣僚23名を発表したが、閣僚に女性や黒人が一人もいないことで国内外

から批判された。15年続いた左派政権倒壊。

2016年8月

▼ブラジル議会上院は、弾劾裁判でルセフ大統領の罷免を決めた。ルセフ氏に対しては、政府会計を不正操作したとの疑いがかけられていた。ミシェル・テメル（ブラジル民主運動党 PMDB）が正式に大統領に就任。副大統領不在に。

2016年8月

◎コロンビア、コロンビア、政府・FARC、停戦合意

2016年10月

△コロンビア、和平合意国民投票実施し、否決される。その後議会で承認可決。

2016年10月

ファン・マヌエル・サントス、コロンビア大統領ノーベル平和賞を受ける。

2016年10月

◎第71回国連総会、米国の対キューバ経済封鎖解除へ決議案採択、賛成191、反対ゼロ、棄権2（米とイスラエル）。米国初めて棄権 反対ゼロに。米国、イスラエル、翌年反対に戻る。

2016年11月

▼米、大統領選で、共和党のドナルド・トランプ選出される。

2016年11月

フィデル・カストロ逝去。

2017年2月

◎コロンビア、政府と反政府組織の国民解放軍（ELN）が7日、和平に向けた協議を開始した。

2017年4月

▼ベネズエラ、最高裁の判決をめぐる与野党対決に端を発し、野党過激派の暴力デモが行われ、7月末まで続き、死者120名を出す。

2017年4月

祖国同盟のレニン・モレーノ、変革のための同盟候補のギジェルモ・ラソを打ち破り、大統領に当選。副大統領は、ホルヘ・グラス。

2017年6月

ブラジル、検事総長、テメル大統領を収賄罪で起訴

2017年7月

▼ブラジル、ブラジルの裁判所は12日、ルイス・イナシオ・ルーラ・ダシルバ元大統領に対し、収賄と資金洗浄の罪で禁錮9年6カ月の有罪判決を言い渡した。ルーラ氏は控訴する方針。

2017年7月

▼ベネズエラ危機の中で、トランプ政権、中南米政策をフロリダ州選出のマルコ・ルビオ共和党上院議員に任せ、対ベネズエラ、キューバ政策一層過激になる。

2017年7月

◎ベネズエラ、制憲議会投票実施。投票率41.53%。545人の議員を選出。

2017年8月

▼ペルーで14カ国により、リマ・グループ結成される。当初14カ国、アルゼンチン**、ブラジル、カナダ**、チリ、コロンビア**、コスタリカ、グアテマラ*、ホンジュラス*、メキシコ**、パナマ*、パラグアイ**、ペルーの12カ国。その後ガイアナ、セントルシア***も加わり、14カ国となる（*は国連総会における米国の首都エルサレム認定撤回要求決議に賛成した国、**は棄権、***は欠席した国）。

2017年9月

◎コロンビア政府、ELN勢力は2千人弱と停戦合意する。停戦合意は10月1日に施行され、2018年1月12日まで続く

2017年9月

◎コロンビア、FARC武器引き渡し完了。

2017年11月

▼ホンジュラス、大統領選挙で国民党のフアン・オルランド・エルナンデス、「独裁反対同盟」のサルバドル・ナスラジャと接戦の末、勝利。野党陣営、国際監視団も不正選挙でやり直しを要求。

2017年12月

▶チリ大統領選、「チリは進む」の右派のセバスチャン・ピネーラ、決選投票で与党連合の「多数派勢力」候補のアレハンドロ・ギジェル破り当選。

2018年1月

▼トランプ米大統領、ハイチ、エルサルバドルに対し「けつの穴」の様な国と述べる。

2018年1月

▼ブラジル連邦第4地方裁判所、収賄とマネーロンダリング（資金洗浄）の罪に問われた同国のルーラ元大統領に対し、禁錮12年1月の有罪判決を言い渡す。一審に続いて有罪となり、法律上の規定でルーラ氏は10月の大統領選出馬の資格を失う。

2018年1月

△コロンビア政府、左翼ゲリラ民族解放軍（ELN）との和平交渉を中断

2018年1月

▼米国政府、対キューバ、ツイッター作戦用にインターネット・タスクフォースを創設すると発表。

2018年1月

▼トランプ大統領、わが政権は、キューバとベネズエラの共産主義、社会主義独裁政権に対し、厳しい制裁を科したと大統領一般教書で述べる。

2018年2月

▼ベネズエラ、1月から断続的に開催された与野党協議、一端双方合意するも、野党、米国の支持により署名せず、無期限の休憩となる。

2018年2月

▼エクアドル、国民投票で大統領無期限再選を禁止。

2018年2月

▼ティラーソン国務長官、「ベネズエラや中南米諸国の歴史をひもとくと、どうしようもない状態に、しばしば軍部が対処してきた」と指摘。マドゥーロ氏について「キューバのビーチ沿いにすてきな農園を用意してくれる友人がいるに違いない。そこで良い人生を送ることができる」と冗談めかしながら亡命の可能性に言及した。

▼ティラーソン国務長官、キューバのカストロ体制から初めて権力が移譲されていく、非民主的とのトランプ大統領の分析に同意すると発言。

2018年2月

▼米国務長官講演「西半球における米国の関与について」から
(月1日)モンロー・ドクトリンは明らかに成功してきたと思う。冒頭で述べたように、西半球でわれわれを結び付けているのは共有する民主的価値だ。[……]モンロー・ドクトリンは当時、明らかに重要なコミットメントだったし、年月を経ても、われわれの関係の枠組みであり続けていると思う。[……]ときどき思うのだが、われわれはモンロー・ドクトリンの重要性やそれがこの西半球に意味したこと、共有する価値の保持について忘れていた。だから、当時と同様、今日も重要だと思う。

2018年2月

▼グアテマラ検察当局、在任中の汚職容疑でアルバロ・コロ元大統領や、英国を拠点とする国際援助団体オックスファムのフアン・フェンテス代表らを逮捕。大統領選は2019年)。

2018年2月

▶コロンビア、FARC、選挙候補者の身の安全、保障されず、選挙活動を停止。国際検証委員会、合意34項目中、82%が履行されていないと発表。

2018年2月

▼フランシスコ・パルミエリ米務省西半球担当主席副次官補、「もしマドゥーロ政権がベネズエラ国民に食料、医薬品、医療サービス援助だけを許可するなら、われわれは直接の衝撃を与えるであろう」と述べ、軍事干渉を示唆する。

2018年2月

ボリビア、エボ・モラーレス大統領、米国大使にボリビアで陰謀をめぐらさないように警告。

2018年2月

ホンジュラスで、反政府同盟(マヌエル・セラヤ主宰)、OASに選挙報告の開示を要求。OASのホンジュラス反腐敗対免除委員会責任者のフアン・ヒメネス、アルマグロ事務総長との意見の違いから辞職。

2018年4月

▶米ペンス副大統領、キューバ政府をカストロ独裁体制と決めつけ、キューバの反政府派が立ち上がり自由を求めるのを支援する、キューバの独裁政権は失敗したイデオロギーを米州で広めようとしていると述べる。

2018年4月

▼ニカラグア政府の年金改革に抗議して、4月18日からニカラグア各地で抗議行動が行われ、20数名の死者がでたと報道される。

2018年 ラテンアメリカでは6カ国（コスタリカ、ベネズエラ、パラグアイ、コロンビア、メキシコ、ブラジル）で大統領選挙実施。